

第62回 東日本実業団対抗駅伝競走大会

【出場結果】

実施日 : 11月3日(水・祝) 8時スタート

コース : 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場及び特設周回コース

総距離 : 7区間 76.4 km

成績 : 3時間50分35秒 17/23位

| | | | | |
|----------|------------|-------|--------|--------|
| 出場者・リザルト | 1区 13.4 km | 加藤 平 | 17/23位 | 40'01" |
| | 2区 8.4 km | 小林 航央 | 17/23位 | 24'27" |
| | 3区 16.8 km | 親崎 達朗 | 15/23位 | 50'13" |
| | 4区 8.4 km | 西沢 晃祐 | 17/23位 | 25'34" |
| | 5区 8.4 km | 田中 龍誠 | 15/23位 | 25'15" |
| | 6区 8.4 km | 渡辺 瑠偉 | 19/23位 | 26'36" |
| | 7区 12.6 km | 関口 大樹 | 16/23位 | 38'29" |

【レポート】

今年度もコロナ禍の中、埼玉県庁～深谷駅折返し～熊谷スポーツ文化公園陸上競技場の通常コースでの開催は見送られ、昨年同様「熊谷スポーツ文化公園陸上競技場及び特設周回コース」にて大会が開催されました。

レース当日は時折強い風が吹くコンディションの中、ニューイヤースタートのプラチナチケット「12 枠」をかけた熱いレースが展開されました。



1区先の先頭集団が競技場を2周して周回コースへ

今回の駅伝はエース級の選手を前半区間に配置し、序盤から駅伝の流れを掴む作戦を組み、1区には直前の10000mのトラックレースで29分7秒の自己記録を更新したエースの加藤を起用しました。



1区 加藤選手

今年度の加藤はシーズン前半から5000mのレースに果敢にチャレンジし、14分10秒台の記録をコンスタントにマークする活躍で、トラックレースでのスピードカとフルマラソンまで走る持久力を兼ね備えたチームのエースに成長しました。

レースは先頭集団が牽制し合い、前半の5kmを15分40秒で通過するスローペースとなりましたが、5km過ぎから一気に集団のペースが上がり、次の5kmは14分20秒台のハイペースとなったため、加藤も厳しい表情に変わりました。

しかし、何とか集団が見える位置で粘り切り、先頭の選手とは48秒差、他の強豪チームの選手に対しても秒差の17位で2区の小林に襷を繋ぎました。

加藤の力走のお陰で、久しぶりに上位集団が見える位置で2区に襷が繋がり、スタートから出遅れることなく、駅伝の流れを掴んだ中でレースを進めることができました。

2区は外国人選手が起用できるインターナショナル区間となり、強化実業団チームはこぞって外国人選手を投入するため、当社も加藤に続きエース格である小林に勝負を託しました。



2区 小林選手

小林は9月に行われた全日本実業団対抗陸上選手権大会 1500mでも3分41秒28の自己記録を更新し4位入賞を果たす活躍を見せ、5000mでも13分台の力を持つチームナンバー1のスピードランナーであり、外国人選手にも臆することのない強靱なメンタルと身体能力を持ち合わせており、自信を持って2区に起用しました。

レースでは、加藤が先頭の集団が見える僅差で襷を渡してくれたため、持ち前のスピードで勢い良く飛び出し、外国人選手と肩を並べる走りで3kmを8分20秒台のハイペースで通過する期待通りの走りで順調にレースを進めました。

さすがに5kmを過ぎてからは身体が固まり始めましたが、持ち味のラストスパートも冴え、外国人選手数名には抜かれたものの、日本人選手に対しては競り勝ち、昨年の記録を1分近く更新する好タイムをマークし、1区の順位をキープする17位で3区の親崎に襷を繋ぎました。

今年の駅伝では、これぞ小林というダイナミックな素晴らしい走りを披露してくれました。

3区は16.8kmの最長区間となり、各チームともエースを起用する中で、当社も大舞台でも臆することなく、抜群の安定感を発揮してくれる親崎を起用しました。



3区 親崎選手

親崎は、昨年度に一時期体調を崩すアクシデントがありましたが、苦しい中でも自分と正面から向き合って心身共に成長を見せ、今年度のレースでは常に安定した記録を残し、加藤、小林と共にチームの3本柱として力をつけてきました。

レースでは、1km3分を切る好ラップで軽快に走りだすと、中盤以降もラップを落とすことなく、強化実業団チーム2社を抜き去る会心の走りを見せ、各チームのエース級の選手にも引けを取らない走りでも順位を15位に押し上げて4区の西沢に襷を繋ぎました。

この一年間の親崎の取組みと成長が凝縮された素晴らしい走りだったと感じます。

続く4区は8.4kmと距離は短いものの、エース区間からの流れを切らせてはいけなかったために重要な区間となりますが、この区間には暫くレースから遠ざかっていた西沢を起用しました。



4区 西沢選手

入社1年目の男鹿駅伝での快走以来、度重なる故障を繰り返し、なかなかレースに出場することなく3年目を迎えましたが、身体のメンテナンスにも気を配れる様になり、夏以降から練習を継続することができ、少しずつ本来の走りを取り戻していたため、西沢の可能性に期待し4区への起用となりました。

レースでは、親崎が15位に上げた順位をキープすることが求められ、序盤は軽快なピッチを刻んで快走が期待される中、中盤以降は走り込み不足の影響が出始めてペースが鈍ると、やはり自力に勝る強化実業団2チームに抜かれる苦しい展開になりました。

その後は最後まで必死に粘り、現時点では持てる力を出し切った区間17位の走りで、5区の田中に襷を繋ぎました。

次回のレースではしっかりと練習を継続させ、本来の西沢の走りを見せてくれることを楽しみに待ちたいと思います。

5区も4区に続き8.4kmの距離を走る繋ぎの区間になりますが、ロードの走りには定評のある新人の田中を起用しました。



5区 田中選手

社会人1年目の田中は大学時代からの故障が癒え、少しずつ本来の走りを取り戻してきている過程ではありますが、東洋大学時代に箱根駅伝の5区の山登りを2度経験し、大舞台でも自分の走りに徹することができる強心臓に期待して5区の起用となりました。

レースでは、序盤からリラックスしたフォームで1km3分を切るペースを刻むと中盤以降も風と暑さの影響を感じさせないクールな走りを披露し、前方を走る16位の八千代工業さんとの距離を22秒差に縮める区間15位の好走で6区の渡辺に襷を繋ぎました。

まだまだ練習では好不調の波があるものの、ここ一番で力を発揮する田中には、底知れぬ力が感じられるため、益々今後の飛躍を期待しています。

続いて 6 区も 8.4 km の同じ距離となり、終盤に向けたアンカーへの繋ぎ区間となりますが、ここには先日の 5000m で 14 分 40 秒台をマークして復調の兆しのある渡辺を起用しました。



6 区 渡辺選手

昨年度は本来の力を発揮出来ず苦しいシーズンを過ごしましたが、今年度は夏場以降、効率的に時間の使える朝練での練習量を増やして走力を蓄えてきました。

秋口にはその成果が出始め、練習でも本来の腰高の大きなフォームが戻ってきました。

記録会でも久し振りに 5000m で 14 分 40 秒台をマークし、復調の兆しのある中、6 区での起用となりました。

レースでは、序盤こそ腰高の大きなフォームで 1 km 平均 3 分 2 秒～3 秒台のラップで刻みましたが、後半は暑さと風の影響を受けてペースが伸び悩み、苦しい走りとなりました。

苦しい走りの中でも必死に腕を振り、後方を走る ND ソフトさんとの距離は縮まったものの、何とか 17 位を死守してアンカーの関口に襷を繋ぎました。

今回はもう一歩の走りでしたが、夏場から練習スタイルを変えて本来の力を取り戻してきた渡辺は必ず近いうちにその成果を示してくれるはずです。

7区のアンカーは12.6 kmとなり全区間で3番目の長距離区間となりますが、最後のポイントであるこの区間には最近急激に力をつけてきた関口を起用しました。



7区 関口選手

昨年度は5区を走り、練習不足の影響で本来の走りをすることはできませんでしたが、渡辺と同様に夏場から練習スタイルを変え、朝にじっくりと距離を踏んで確実に力をつけてきました。

元々トラックレースよりロードレースを得意とする関口だけあり、直前に行った10 kmの試走では、チーム1のスピードランナーである小林とも遜色の無い走りをしており、自信を持ってアンカーに抜擢しました。

レースでは試走で見せた走りをそのままに1 km 3分~3分5秒ほどのペースを冷静に刻み、後ろを走るNDソフトさんの追従を許さず、逆に大差をつける力走で総合17位の3時間50分35秒のチーム新記録でゴールテープを切りました。



チーム新記録でのゴール



今後の活躍にご期待下さい！！

【総括】

今年度は会社の事業所移転に伴い朝霞市を拠点として心機一転でのチーム始動となりました。

春先こそ移転に伴う業務量の一時的な過多で競技に集中できない時期もありましたが、夏の走り込みシーズンを迎えると、選手達が自発的に入社前の朝練習で 25km 走を実施するなど、基礎的な走力を蓄える地道なトレーニングを積み重ねてきました。

その成果が徐々に練習での走りに表れ始め、トラックレースの記録も飛躍的に向上し、チームとしては非常に良い雰囲気のまま駅伝本番を迎えることができました。

結果として3つの強化実業団チームに競り勝つ総合 17 位となり、総合記録でも暑さや風の影響があったにも関わらず、昨年度の記録を 2 分以上縮める 3 時間 50 分 35 秒のチーム新記録でゴールすることができました。

今回はニューイヤー駅伝出場条件となる「12 位」には届きませんでしたでしたが、当社のように、フルタイム勤務をこなした上で競技活動に向き合うチームの活動成果としては、非常に価値のあるものであったと感じております。

今回 12 位となったコモディイイダさんとの差は 5 分 20 秒差とまだまだ大きな開きがありますが、次年度は更にチーム力を強化し、今年より一つでも上を目指してニューイヤー駅伝の当落選上で勝負に加われるようなチームに成長を遂げられると確信しています。

私たちは、サポート頂ける会社や応援して頂ける皆さまに感謝し、その恩返しとして少しでも「元気」や「感動」を与えられるよう、これからも精進して参りますので、引き続き皆さまのご理解と温かいご声援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

以 上